

定住自立圏共生ビジョンの方向性について

岩見沢市企画室

【1】共生ビジョンで定める項目

（1）定住自立圏及び市町村の名称

【名称】 南空知定住自立圏（仮称）

【市町村】 中心市：岩見沢市

構成市町：夕張市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町

（2）定住自立圏の将来像

本日の協議事項
（意見集約）

【2】（本資料2ページ）を基本的な考え方として、将来像を定める。

（3）定住自立圏において推進する具体的な取組み

本日の協議事項
（意見集約）

【4】～【7】（本資料4～7ページ）を定住自立圏形成当初の基本的な連携分野とし、具体的な取組みについては、担当者部会を経て今後の懇談会で定める。

（4）定住自立圏共生ビジョンの期間

【計画期間】 令和7年度～令和11年度（5年間）

（5）成果指標

（3）で定める具体的な取組みに基づき、担当者部会を経て今後の懇談会で定める。

【2】南空知圏域の主要要素と将来像(案)

豊かな自然と農業

- ・ 平野と山地の両方を併せ持つ自然
- ・ 稲作を中心とした農業地域
- ・ メロン、リンゴやブドウといった果樹の生産
- ・ 日本酒やワインなど地場農産物を活かした特産品

地理的特性

- ・ 道内有数の豪雪地帯
- ・ 札幌や新千歳空港といった大都市機能への高いアクセス性
- ・ 札幌圏と道北・道東間の経由地
- ・ 非臨海地域としての安全性

生活の課題

- ・ 著しい人口減少と高齢化
- ・ 担い手不足による産業とコミュニティ機能の縮小
- ・ 先細る公共交通と圏域内アクセス
- ・ 少子化による学生不足

歴史

- ・ 北海道の開拓を担った2つの集治監
- ・ 本州からの入植による農村集落の形成
- ・ 日本の近代化を支えた石炭産業と鉄路

新世代へのチャレンジ

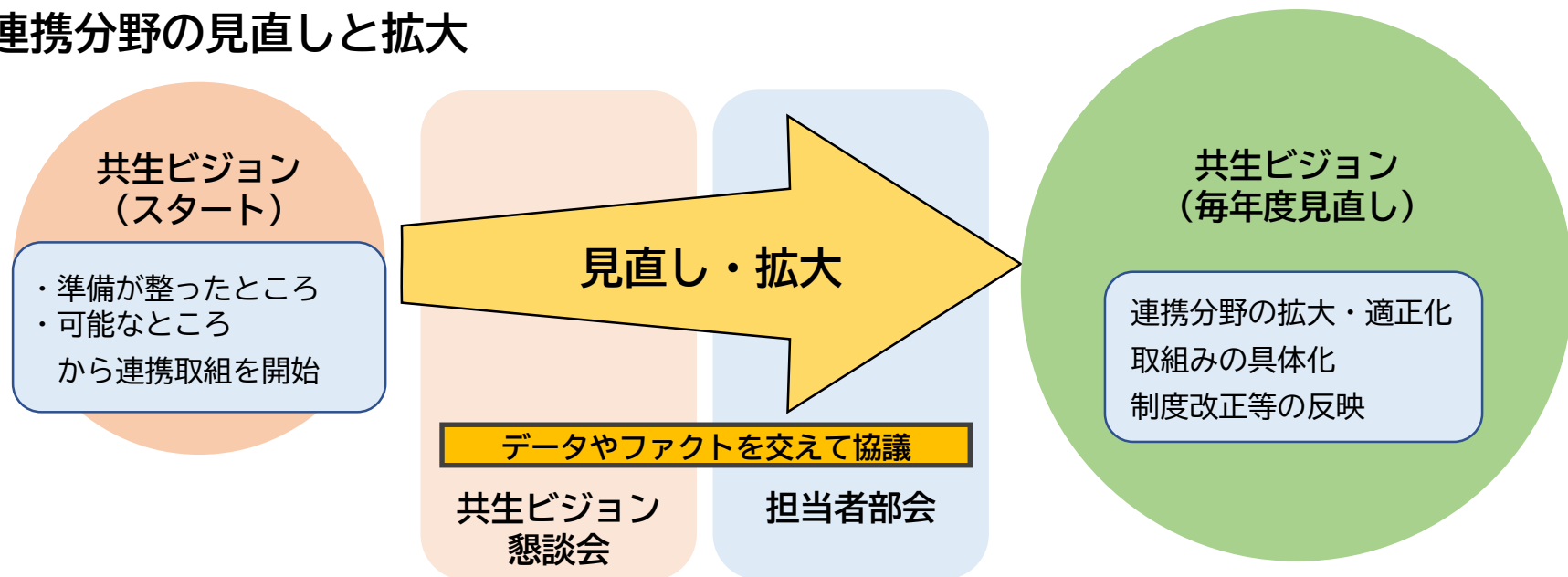
- ・ ICTの利活用による産業振興と住民生活の向上
- ・ アクセス性の高さを背景とした新たな人材の活躍
- ・ 子育て世代を呼び込む施策の展開

『圏域の将来像』の基本方針(案)

- ・ 各市町の特色を残しつつ、優位性を活かして発展する圏域
- ・ 資源（ヒト・モノ・カネ）を共有し、住民の生活レベルを維持する圏域
- ・ 厳しい環境下においても開拓精神を忘れずチャレンジする圏域

【3】連携分野の見直しと拡大

■ 連携分野の見直しと拡大



《連携分野設定》 次の考え方を基本として、取組みの効果を含め総合的に判断

定住自立圏の取組みの前提： 連携の取組みには必ず「中心市」が参画

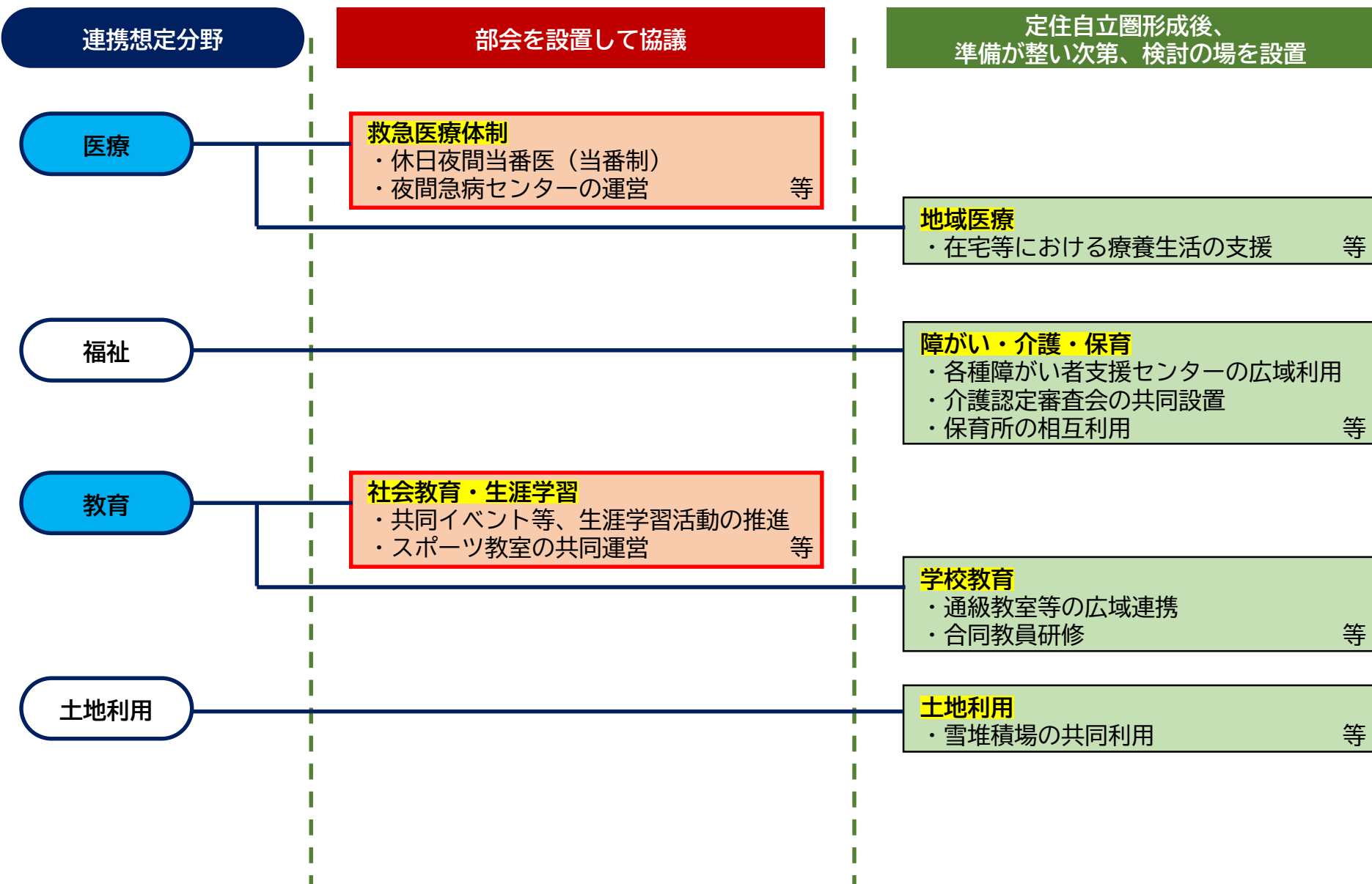
(1)当初設定

- ① 既に中心市を含む複数市町での連携取組が実施されている。
- ② 既に中心市以外の複数市町での連携取組が実施されており、新たに中心市が参画することが容易。
- ③ 早期に連携に向けた協議が必要。
- ④ 連携取組が具体化しやすい分野・事業。

(2)見直し・拡大・適正化

- ① 既に中心市以外の複数市町での連携取組が実施されており、中心市参画の準備が整った分野・事業
- ② データ収集や情報交換により、協議を行う環境が整った分野・事業
- ③ 国の制度改正等により、連携して取組むことの有意性に変更があった分野・事業

【4】将来像の具現化に向けた施策体系〔生活機能の強化①〕（案）



※ アンダーライン は、既に、岩見沢市と他市町の連携が一部において検討・実施されている項目

【5】将来像の具現化に向けた施策体系〔生活機能の強化②〕（案）

連携想定分野

部会を設置して協議

定住自立圏形成後、
準備が整い次第、検討の場を設置

産業振興

農業

- ・ 鳥獣被害防止対策の広域連携
 - ・ 生産性向上や担い手の育成
- 等

商工・雇用

- ・ 地域ブランドの情報発信・販路拡大
 - ・ 雇用支援の広域連携
- 等

観光

- ・ 広域観光イベント（グルメフォンドなど）
 - ・ 広域観光ルートの開発
- 等

環境

環境・廃棄物

- ・ 廃棄物施設や火葬施設の共同利用
 - ・ 脱炭素社会に向けた共同での取組み
 - ・ 環境教育の広域での推進
- 等

防災

防災

- ・ 広域避難体制の構築
 - ・ 備蓄品・資機材の共同備蓄
- 等

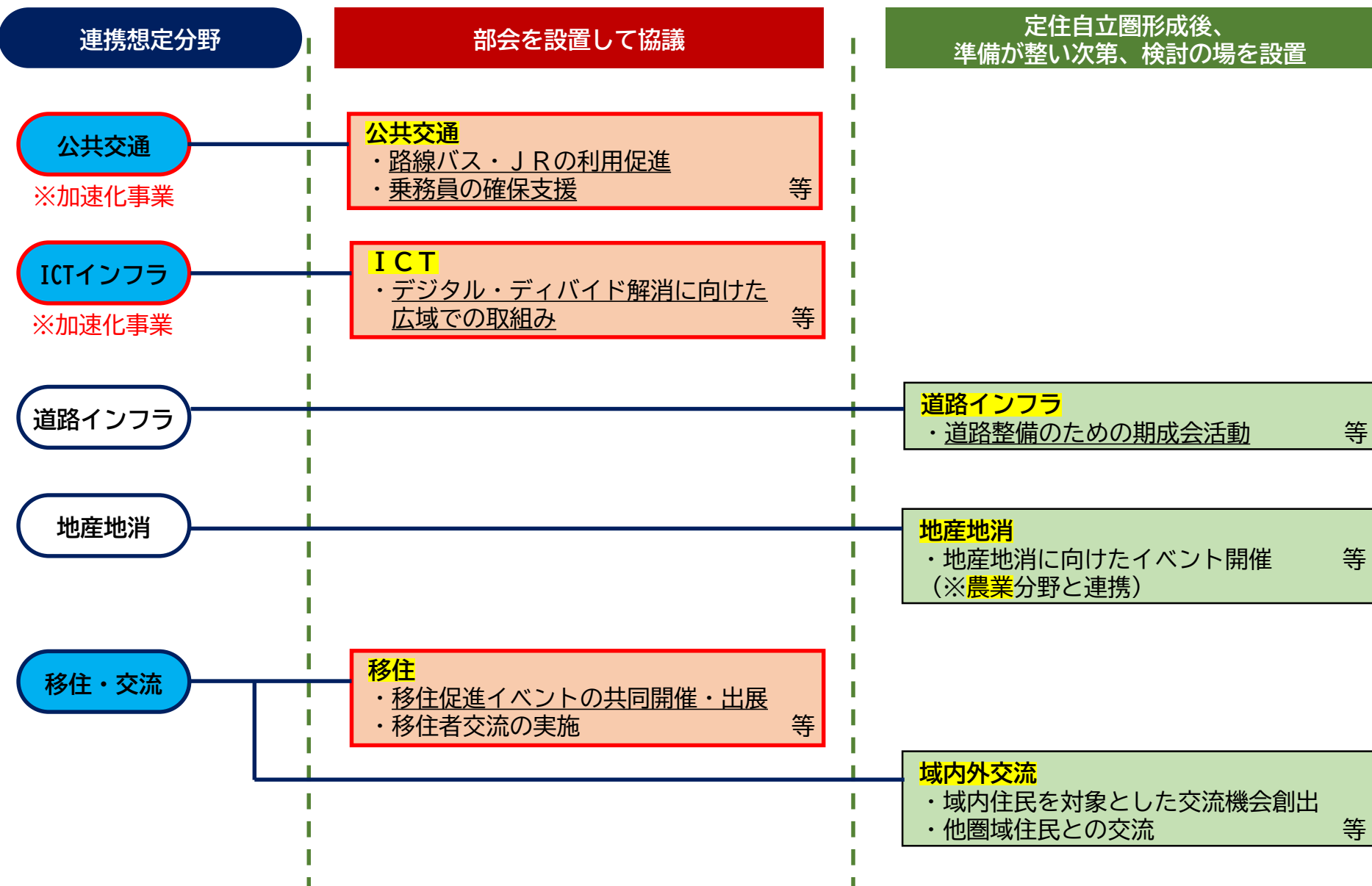
消防

- ・ 相互応援体制の整備
 - ・ 消防体制の広域化
- 等

※加速化事業

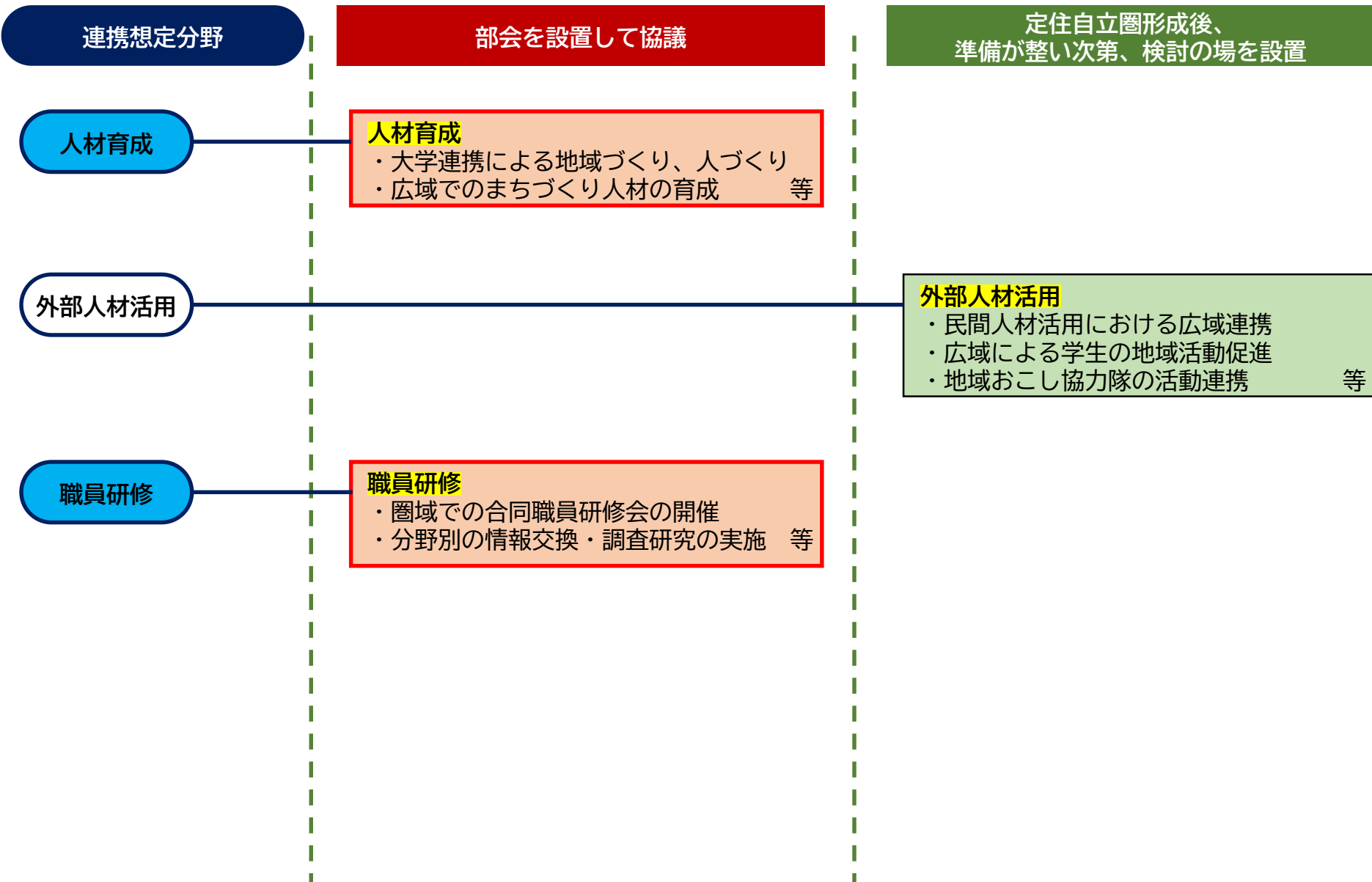
※ アンダーライン は、既に、岩見沢市と他市町の連携が一部において検討・実施されている項目

【6】将来像の具現化に向けた施策体系 [結びつきやネットワークの強化] (案)



※ アンダーライン は、既に、岩見沢市と他市町の連携が一部において検討・実施されている項目

【7】 将来像の具現化に向けた施策体系〔圏域マネジメント能力の強化〕（案）

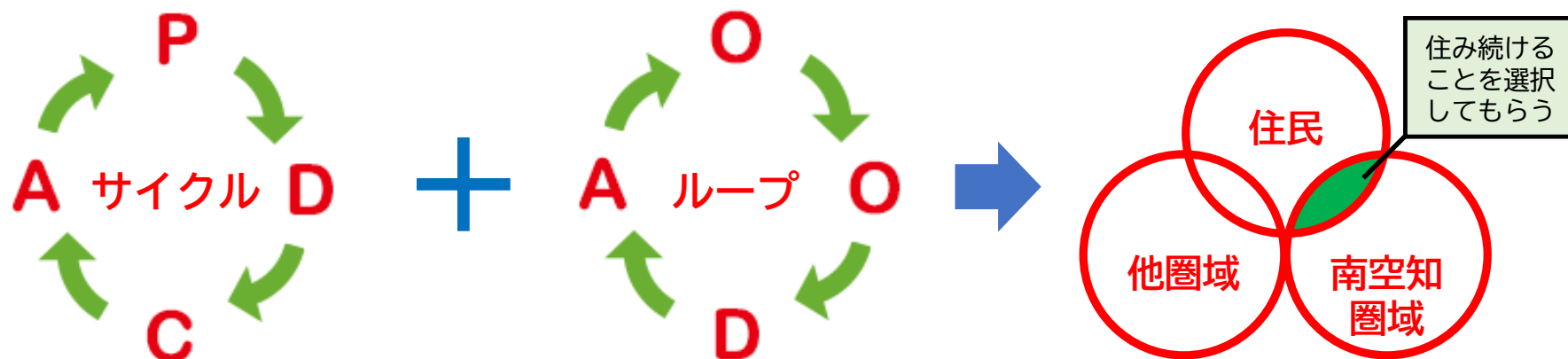


※ アンダーライン は、既に、岩見沢市と他市町の連携が一部において検討・実施されている項目

【8】施策の進捗管理

■ 進捗管理

共生ビジョンの取組みを計画的にすすめると同時に、感染症の流行や災害などの不測の事態や円高、物価高騰、担い手不足などの社会・経済情勢にも柔軟に対応し、適宜、必要な見直しを行いながら施策を推進する。



目指す方向性（将来像）
に向けて計画的に進める

PDCA サイクル

① Plan（計画）

② Do（実行）

③ Check（評価）

④ Act（改善）

具体的な分野や取組みは
データを基に柔軟に見直し

OODA LOOP (ウーダ・ループ)

① Observe（観察）
観察・データによって現状を認識・把握

② Orient（状況判断）
観察結果から、状況判断

③ Decide（意思決定）
具体的な方策や手段について意思決定

④ Act（実行）
意思決定したことを実行に移す

人口減少時代においても
住民が住み続ける圏域へ

◆ 中心市と構成市町の間で限られた資源（ヒト・カネ・モノ）を共有

◆ 質の高い行政サービスを継続して提供



安心して住み続けること
ができる環境の構築